第４章

スリンプル・プログラムの実践校の取り組み

※各校の児童生徒数、教職員数、学級数は、令和５（２０２３）年５月１日現在です。

Ⅰ 10年継続実践「かかわり文化」完成

愛知県刈谷市立依佐美中学校

学校の概要

依佐美中学校は、生徒数701名、教職員数62名、学級数22の中規模校。愛知県刈谷市南部に位置し、高浜市・安城市と隣接。田園風景と住宅街がバランスよく広がる落ち着いた校区環境。３小学校区から登校する生徒の約９割が自転車通学です。

「よさっぴタイム」導入の経緯

「よさっぴタイム」は、互いの良さを認め合い、自己肯定感をもって主体的に学ぶ生徒の育成をねらい、平成23（2011）年度から導入に向けた検討が始まりました。生徒のコミュニケーション能力を高めるためのグループワークに以前から取り組んでいた本校ですが、継続実践という点で課題がありました。そうした中、出会ったのが、曽山先生の提唱するプログラムです。「自分にＯＫと言えなければ他者にはなおさらＯＫとは言えない」という先生の言葉に共感した教員が、先生を校内研修会に招聘しました。その研修会をきっかけに、まずは教員間のソーシャルスキル向上を図る研修が始められ、そこから「よさっぴタイム」が誕生しました。以降、毎年、研修を重ね、「よさっぴタイム」の深化を図りつつ、現在に至っています。

「よさっぴタイム」の実際、実践の「売り」

(1) ねらいを明確にして取り組む

「よさっぴタイム」は、より良い人間関係を築くコツや技能の習得および自己肯定感の向上を目的としています。そのため、ソーシャルスキル・トレーニング（ＳＳＴ）と構成的グループエンカウンター（ＳＧＥ）を統合したスタイルで、生徒の実態に即した意図的・計画的な取り組みとなるように心がけています。

この「よさっぴタイム」は、毎週月曜５時間目の前に10分間設定しています。全校で以下の共通確認事項のもと、取り組んでいます。

「よさっぴタイム」の共通確認事項

①質問を難しくしない。誰でも答えられるものにする。

②うなずきながら聴き、相手が話しているときは遮らない。

③もっと詳しく話を聴きたいときはフリートークの時間に尋ねる。

④相手を否定することを言わない。

⑤生徒も教員も楽しむ。ただし、教員はねらいをもって行う。

⑥良いと感じたことは、その場で具体的にさらっとほめる。

⑦アイメッセージを活かす。

⑧一人一人が安心して話せる時間と環境を整える。

この共通確認事項の①については、質問に対して「パス可」としています。しかし、パスが続くことは人間関係づくりの趣旨と合わないため、誰もが答えやすい質問にすることで、パスのない交流となるよう心がけています。また、②④⑥に見られるように生徒の自

よさっぴタイム

◇ お願いします。 &
ありがとうございました。
◇ うなずきながら聴く。
◇ 指示をよく聴く。

己肯定感が高められるよう、受容の姿勢を大切にしています。この姿勢が信頼関係や人間関係づくりの意欲へとつながることをめざします。

「よさっぴタイム」のルールは「お願いします&ありがとうございました（挨拶をする）」「うなずきながら聴く」「指示をよく聴く」の３つです。これは、生徒たちに改めて意識してほしいこととして、開始時に担任が黒板に掲示しています。

(2) 生徒の実態に即した演習で取り組む

「よさっぴタイム」では下記の11種類の演習から、その時期の生徒の実態に即したものを選び、毎週実施しています。この中で、①は自己紹介の要素を含むため主に年度当初に行い、⑪は学期を通して感じた仲間の良いところを伝え合う要素を含むため学期末に行います。全員が同じ方向を向いて行うことのできる②は、コロナ禍の状況にマッチしていました。⑦や⑧は、恥ずかしがらずに自己開示することが目標であるため、人間関係がある程度構築されている学期後半に行うのがよいです。

「よさっぴタイム」演習

① ネームゲーム
② 後出しジャンケン
③ アドジャン(10問)
④ アドジャン(5問＆問題作成)
⑤ アドジャン(5問＆話形指定)
⑥ 二者択一
⑦ 質問ジャンケン
⑧ １分間スピーチ
⑨ アドジャン＆１分間スピーチ
⑩ 二者択一＆１分間スピーチ
⑪ いいとこ四面鏡

これらの演習からどれを行うかは、よさっぴ部会の４名の担当教員が協議して決めます。生徒の実態に即し、かかわりの中で自己肯定感を高めていくこと